

たとひ全世界を得ても マルコの福音書 8:27~38

1. 最も大切な質問

(1) 「あなたがたはわたし(イエス)をだれだと言うか」 (「わたし(イエス)はだれか」ではない)

(2) 人々の考え

- バプテスマのヨハネ(非業の死を遂げた)
- エリヤ(旧約聖書最大の預言者。死を経験せずに天に入る)
- 預言者のひとり(モーセに匹敵)

並外れた人格と奇跡

(3) ペテロの答え

- 「キリスト」(=メシア)
- 「正解」なのに…

神から遣わされた王、救い主



2. 期待を裏切るメシア像

(1) 受難の予告

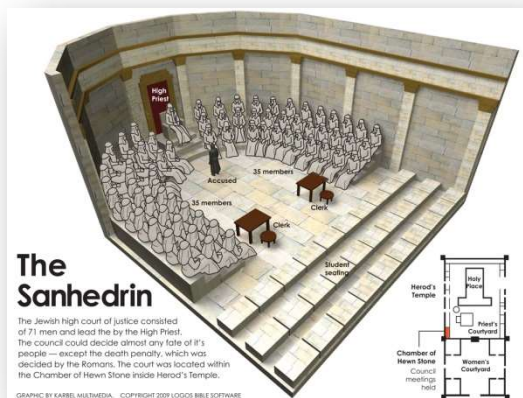
- 多くの苦しみを受ける
- イスラエルの指導者たちに捨てられる
- 殺されるが三日後によみがえる

(2) ペテロの驚き

- メシアが苦しみを受け殺されるなどとんでもない
- 「いさめ始めた」
- ユダヤ人のメシア像(勝利者、解放者)と正反対

(3) 主の叱責

- 「弟子たちを見ながら」 = 他の弟子たちも同じ受け止め方をしていた！
- 神のご計画を理解せずに、自分の都合の良い見方をしている
- サタンは、神の救いの計画を阻止するのに、愛弟子ペテロを使った！



Passion: 情熱 / 受難

3. 十字架の道こそいのちへの道

(1) 驚くべき逆説

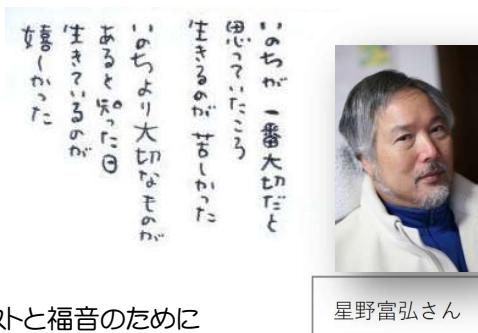
- 「自己実現こそ」の罠 「神のようになれる」(アダムとエバ)
- [この世の]いのちを救おうと思うとそれを失い、イエス・キリストと福音のために [この世のいのちを]失うと[永遠の]いのちを救う
- 自分の十字架: 私しか負うことのできない十字架(恥と苦しみ)

救おうとすれば失うが、捨てると得る

(2) たとい全世界を得ても

- いのちを買い戻すことはできない [死後にチャンスはない]
- 聖書は輪廻を完全に否定
- 永遠の世界の片鱗(9章)
- イエスがキリスト(メシア)であるなら…

死で終わる人生と
死から始まる人生



星野富弘さん



福音メッセージ たとい全世界を得ても

マルコの福音書 8 章 27 節～38 節 【新改訳改訂第3版】

- 27 それから、イエスは弟子たちとピリポ・カイザリヤの村々へ出かけられた。
その途中、イエスは弟子たちに尋ねて言われた。
「人々はわたしをだれだと言っていますか。」
- 28 彼らは答えて言った。「バプテスマのヨハネだと言っています。
エリヤだと言う人も、また預言者のひとりだと言う人もいます。」
- 29 するとイエスは、彼らに尋ねられた。
「では、あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」
ペテロが答えてイエスに言った。「あなたは、キリストです。」
- 30 するとイエスは、自分のことをだれにも言わないようにと、彼らを戒められた。
- 31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、
長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、殺され、
三日の後によみがえらなければならないと、弟子たちに教え始められた。
- 32 しかも、はっきりとこの事がらを話された。
するとペテロは、イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。
- 33 しかし、イエスは振り向いて、弟子たちを見ながら、ペテロをしかって言われた。
「下がれ。サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」
- 34 それから、イエスは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、彼らに言われた。
「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、
そしてわたしについて来なさい。」
- 35 いのちを救おうと思う者はそれを失い、
わたしと福音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。
- 36 人は、たとい全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。
- 37 自分のいのちを買い戻すために、人はいったい何を差し出すことができるでしょう。
- 38 このような姦淫と罪の時代にあつて、わたしとわたしのことばを恥じるような者なら、
人の子も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るときには、
そのような人のことを恥じます。」